

実習指導のできる看護実践者の育成を目指して

—現任教育3年目コース「学生とともに学ぼうよ」の取り組み—

柴田久美子

第62回国立病院総合医学会
(平成20年11月12日 於東京)

IRYO Vol. 63 No. 10 (649-652) 2009

要旨

国立病院機構水戸医療センターは、卒後3年目までの看護師が47%を占める。1つの病棟で6-10人の学生を受け入れており実習指導のできる看護師の育成が急務のため、現任教育3年目コースで看護師37名を対象に『学生指導研修』を行った。研修では、指導経験が浅い3年目看護師が実習指導を具体化できるように、①学生指導をイメージするために自分が学生だった時の実習体験から実習指導を考える、②当院附属看護学校の教員との協力体制を組む、③実習指導を行ううえで必要な要素を組み込んだ『実習指導書』の活用、④OJTにおける指導方法の明確化、の4点を工夫して研修を実施した。研修終了後のアンケートでは学生指導に対する関心について、「関心がある」「非常に関心がある」が研修前の18%から、研修後は63%に増加した。学生指導に関心のある看護師は、学生指導を行う視点が『学生』に向けられ、学生に関心のない看護師の視点は『自分自身』に向けられていた。関心が『学生』に向いていることが重要であることがわかった。今までの『育てられる者』であった看護師が、学生指導という役割を与えられたときに、対象に関心を持てるかが『育てる側』に変容する要因であり、学生の主体性ややる気が3年目看護師の関心を高める鍵になっていた。

キーワード 現任教育, 卒後3年目看護師, 実習指導, 学生への関心

はじめに

国立病院機構水戸医療センターは、500床の急性期病院であり、卒後3年目までの看護師が47%を占める。実習受け入れは、当院附属の看護学校を含め、設置主体、教育課程の異なる5校である。学生指導は病院長から任命された実習指導者が実施している。とくに、1つの病棟で6-10人の学生を受け入れているため実習指導のできる看護師の育成が急務であ

る。そのため、当院では『学生指導研修』を現任教育3年目コースで行っている。今回、卒後3年目看護師37名を対象に『学生とともに学ぼうよ』という研修を実施した。研修終了後のアンケートをもとに研修を振り返ったので報告する。

1. 現任教育3年目コース「学生とともに学ぼうよ」研修

この研修の目標は、1. 学生指導をとおして役割

元 国立病院機構水戸医療センター 看護部 (現 国立病院機構東京病院)
(平成21年3月30日受付, 平成21年10月21日受理)

It Aims at the Promotion of the Nursing Practitioner who can do the Practice Guidance and the Match of Course "Let's Learn with the Student" during Post-graduate Education Third Year
Kumiko Shibata, NHO Mito Medical Center, (present : NHO Tokyo Hospital)

Key Words : during post-graduate education, guidance student for three years after, student guidance, concern for student

表1 現任教育3年目コース「学生とともに学ぼうよ」研修年間計画

	研修内容	研修日
1回目 集合教育	「指導者の役割について」(講義)	5/29
	「自分が看護学生時の時の実習体験を振り返る」(グループワーク)	4時間
2回目 集合教育	「学生にあった具体的な指導について」(講義)(グループワーク)	6/27 4時間
OJT	実習中の学生を受け持ち、『実習指導書』に基づいた指導の実施・評価	
3回目 集合教育	「『実習指導書』に基づいた学生指導を実施して学んだこと」(グループワーク)	11/10
	「今後の学生指導で心がけていきたいこと」(グループワーク)	4時間

表2 3年目看護師の看護学生時の実習体験の振り返り

	患者との関わり	看護師との関わり
楽しかったこと 嬉しかったこと	・感謝の言葉もらった ・パンフレットを使ってもらえた	・指導者から励まされた、ほめられた ・実習終了時に手をとめて「お疲れさまでした」と言ってくれた
困ったこと 辛かったこと	・コミュニケーションがとれなかった ・ケアを拒否された	・忙しくて話を聞いてくれない ・わからないことを聞けない ・スタッフによって指導内容に違いがある

モデルとなるために必要な能力を理解できる、2. 学生を理解し効果的な関わりが実践できる、である。年間計画内容は表1のとおりである。

指導経験が浅い3年目看護師が実習指導を具体化できるように、①学生指導をイメージするために自分が学生だった時の実習体験から実習指導を考える、②当院附属看護学校の教員との協力体制を組む、③実習指導を行ううえで必要な要素を組み込んだ『実習指導書』の活用、④OJTにおける指導方法の明確化、の4点を工夫して研修を実施した。

2. 研修評価

1) 学生指導をイメージするために自分が学生だった時の実習体験から実習指導を考える

研修生が看護学生時の時の実習体験の「楽しかったこと」「嬉しかったこと」「困ったこと」「辛かったこと」を振り返ることで臨地実習の学生の時の思いをもとに、理想の指導者像をイメージ化していった(表2)。【学生にどんな実習をしてもらいたいのか】

については「働き出してから困らないようにいろいろな技術を身につけてほしい」「ベッドサイドに行きたくさん患者と関わってほしい」などであった。また、【どんな指導をしていきたいか】については、「指導者の指導方法を統一し、基本に忠実に指導する」「学生が声かけや相談をしやすい雰囲気を作る」「ケアの時間や報告の時間をあらかじめ学生と決めておき、その時間は学生と関われるようにする」「実習要綱を把握し目標にあった指導を行う」などであった。

受講生は就職後一人でできる基本的看護技術がほとんどなく、基礎教育終了時点の能力と看護現場で求める能力とのギャップを十分に感じているからこそ、学生にはより多くの経験をしてほしいという意見に繋がったと考える。

2) 当院附属看護学校の教員との協力体制

当院附属看護学校の教員より研修の計画立案時に助言をもらった。さらに「指導者の役割」「学生に

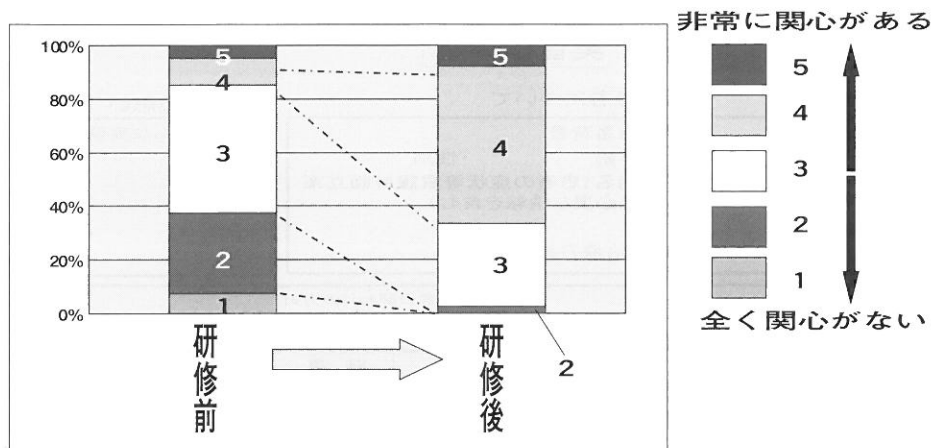


図2 研修終了後の学生指導に対する関心の変化

た」「考えをまとめることで漠然と行っていた指導が具体的に、気づかなかった面に気づくことができた」「実際に行ったことが正しかったか振り返る機会になった」等の意見が聞かれ、指導に対する客観的な評価、振り返りができた。

4) OJTにおける指導方法の明確化

本研修の受講生のOJTにおける指導担当者を実習指導者講習会修了者および副看護師長とし、一緒に「実習指導書」の立案・指導・評価を行った。受講生は指導担当者がいることで安心して学生指導ができ、実習指導者の役割モデルとして指導の実際を学ぶことができた。

5) 研修終了後の学生指導に対する関心の変化

研修終了後のアンケート結果から、学生指導に対する関心について「関心がある」「非常に興味がある」が研修前の18%から、研修後は63%に増加した(図2)。学生指導の関心が高かった研修生は、「自分の関わりによって学生の行動や表情が変わってきた」「一緒に考えたケア方法でケアを実施することができ、患者、学生にも笑顔がみられた」などの理由で、「学生の指導に対しての時間が多くとれるよう心掛けるようになった」「学生がよりよく実習できるにはどうしたらいいだろうと考えるようになった」「学生の頃研修生が学べなかったことを教えてあげたいと思った」と感じていた。一方、関心が低かった研修生は、「関わる時間が少なかったため学生が何を知りたがっているのか判断に迷った」「あまり学生と関わるのがなく、どんなふう言えば理解してもらえるのかが難しく指導が大変だと思っ

た」などの理由で、「自分は学生の気持ちがわからないことがある」「自分は指導は苦手」と感じていた。学生指導に関心のある人は、学生指導を行うことの視点は『学生』に向けられ、学生に関心のない人の視点は『自分自身』に向けられていた。関心が『学生』に向いていることが重要であり、『関心』が向くためには、学生を理解しようと関わること、指導体験を重ねることが重要であることがわかった。今までの育てられる者であった看護師が、学生指導という役割を与えられたときに対象に関心を持てるかが『育てる側』に変容する要因であり、指導後の学生の行動や表情の変化や学生の主体性ややる気が3年目看護師の関心を高める鍵になっていた。つまり、教える側の看護師と教わる側の看護学生が相互作用しながら「看護に対する思い」を核に、ともに学びともに成長しあえる環境を臨地で実践していくことが重要である。

おわりに

臨地実習は学生が実際に患者に関わりさまざまな経験を通して知識と技能を獲得していく場でありその経験を自ら意味づけていくというプロセスをとる。そのため、臨地実習において学生がより経験しやすい環境を提供していくことが必要である。卒後3年目看護師は『学生指導』の研修で学生に関わるプロセスを体験したことによって、学生への関心を高め学生が学びやすい環境を意識することができた。今後も学生に提供している臨地実習の場を活かし、看護学校と連携をとりともに学び、ともに育ちながら、実習指導のできる看護師の育成を目指していきたい。